

永観堂 第二回俳句コンテスト

◆最優秀賞

御仏の御胸は小春ほどの丘 水野大雅 愛知県
永観堂のご本尊、みかえり阿弥陀像を思いました。慈悲深く穏やかな微笑みをたたえ、振り返るしぐさを見せる阿弥陀さま。独特の曲線を描く胸もまた印象的な仏像です。

永観律師に「永観、おそし」と声をかけたという逸話の残る、みかえり阿弥陀。その胸に満ちているのは、「小春」のような慈悲に違いないと思われます。「小春」は、冬の初めの頃に春先を思わせる陽気のこと。慈悲深い御仏の御胸はやはり、「春」ではなくてまさに「小春」の感じがするのです

◆優秀賞

はつ冬の木鼻に獺の眠さうな ぐ 神奈川県
木鼻とは、寺社建築の一部である、頭貫(かしらぬき)などの端が、鼻のように柱から突き出て、彫刻を施したものです。永観堂禅林寺唐門の軒先の木鼻には、架空の動物である「獺」の意匠があります。永観堂の獺の顔を、「眠さう」に感じた穏やかな「はつ冬」のある日です。

獅子門の三十一の句碑へ春

近江菫花

滋賀県

獅子門は、江戸の俳諧師各務支考一派の名。永観堂には、支考の師であった松尾芭蕉の「古池」の句をはじめとして、獅子門の句碑があります。これらの句碑へやって来る「春」。モノクロだった景に色が付いたように、桜や空や雲など永観堂の「春」の景色が一斉に見えてきます。

靴袋を子にもくださり実むらさき

ありあり

兵庫県

見学の為、脱いだ靴を入れて持ち歩く薄い靴袋を、配ってもらった「子」。神妙な顔で靴を脱ぎ、袋に入れ、一所懸命に提げている子と、それをほほえましく見守る親。「くださり」に、親子のほのかな幸せが見え、紫式部の丸い実にも、その気分が映っているようです。

綾取りをしてくれさうな阿弥陀の手

七瀬ゆきこ

三重県

ご本尊のみかえり阿弥陀像の御手を見ますと、なるほど、綾取りの横の糸を縦に取るような手つきにも見えてきます。生きとし生けるものを救う阿弥陀さまの手が、綾取りをしてくれそう、とは楽しい発見です。お言葉が発したと言い伝えられる阿弥陀さまの表情が、益々親しみ深く感じられます。

仏旗はたはた木の階段へ薫る風

磐田小

愛知県

仏教行事の際に飾られるという仏旗。「ブッキ」の音に続く「はたはた」と旗めく擬音が、軽快なりズムを醸し出します。初夏の若葉青葉を渡ってきた薫

風が、龍の体の中を歩いているような気分になるといふ永観堂の「木の階段」
臥龍廊を吹き抜けていきます。

◆特別賞

念仏や紅葉は澄めるみづに触れ 浦野紗知

埼玉県

すべてを阿弥陀仏にまかせきつてとなえるお念仏。一陣の風が吹き、紅葉が揺れ、水にその葉先が触れたのでしょうか。念仏と、紅葉と、澄みきった秋の水には因果関係は無いのですが、作者の心の中でその一瞬、一つに触れ合ったのです。念仏をありがたく思う心が伝わってきます。

底冷えやゆつくりと読むほとけの名 稲畑とりこ

神奈川県

切れ字の「や」が響いて、堂内の底冷えがぐっと増すようです。だからとい
猫って、急いで見て回ったりはしません。阿弥陀さまの御姿をじっと見ながら、
ゆつくりとその名を唱えながら、足先から手先まで、御仏と同じ冷えがしんし
んと伝わってくるのを、有り難く感じているのかもしれない。

堂内の極彩色の秋暑かな 竹澤聡

神奈川県

際立って美しいことで知られる永観堂の阿弥陀堂は、格天井に百花が描かれ、
堂内だけでなく外側の庇や柱にまで極彩色が施されています。秋になっても暑
さの残る「秋暑」の堂内では、確かに極彩色の濃度や輝度が増していきそうで
す。最後の「かな」の詠嘆が静かに響いていきます。

◆佳作

踏む落葉無きまで掃かれ禪林寺

北村純一

神奈川県

龍の背を駆け昇りいざ夏空へ

馬子

兵庫県

散紅葉永観堂の瘦せにけり

山際千蝶

兵庫県

木枯や母の声かと振りかえる

戎茂美

愛知県

雪しづる低き目鼻の風化仏

菅伸明

愛媛県

みかえりに紅葉降りつむ阿弥陀かな

童眼まさみ

高知県

山粧うここにいますと阿弥陀さま

笹谷武史

京都府

照紅葉みかえり仏の美しき顎

大館信恵

埼玉県

紅朽葉つつましやかに苔の上

立松朝子

岐阜県

声明にモミジゆらゆら禅林寺

仲西節男

愛知県

また来るねと父母にささやく夕紅葉

田代温美

兵庫県

老僧の冬を背負ひて臥龍廊

さとう菓子

東京都

紅葉の水面に影を置きにけり

廣崎龍哉

神奈川県

大屋根の瓦三鈷の散松葉

東京随天使

千葉県

しばらくはもみじの匂ひ永観堂

舘健一郎

茨城県

悟るにはまだ早すぎる冬の蜂

小木さん

愛知県

折れそうな千手観音の指涼し	斉藤浩美	愛知県
病んでいて眠り続ける夏の蝶	櫻木啓子	愛知県
みほとけやうはくちびるの影冴えて	葵新吾	徳島県
永観堂もみぢにいろをぬるとちう	青海也緒	京都府
梵鐘の明るきうなり若楓	あずお玲子	香川県
永観堂月に忘れし腕時計	梓弓	三重県
雪の山門寛解の夫と礼	井上さち	愛媛県
ののさまと口ずさみをり冬帽子	斎乃雪	三重県
永観の陰揺れて蟻穴を出づ	鯛山陽大	山口県
金摩れし阿弥陀みどりの中立てり	うしうし	東京都
梅しなふ永観堂の静けさよ	大黒とむとむ	東京都
青紅葉ざわざわ匂ひ立つ白雨	大槻税悦	兵庫県
春半ば加行の水の音爆ぜり	音羽凜	東京都
五百年の大樹新雪と遊ぶ	かつたろー。	広島県
今朝もまた水にはじまる年の暮	花紋	愛媛県
とどまるを知らぬ蜻蛉の青きかな	かもん丸茶	埼玉県
御堂冴ゆ低く血潮の巡る音	川崎 日知	福岡県
晩鐘の余韻紅葉に明け渡す	喜祝音	東京都
紅葉や車庫に干したる袈裟二本	クラウド坂の上	山口県
硝子壺に罅育つらん秋澄める	久留里 61	広島県
眩しきはこの世の尾びれ紅葉散る	河野しんじゆ	東京都
漆黒の池よ紅葉の明るさよ	木染湧水	広島県
錦繡を匂ひ袋に閉ぢこめる	こま	東京都
弥陀仏に紫紺の茄子の堆く	桜井教人	愛媛県
はなのとおりみちすずめのとおりみち	迫久鯨	東京都
龍臥廊きしんきしん肺に冴えたるもの満ちて	澤村 DAZZA	長野県
錦秋を放生池の魚として	渋谷晶	大阪府
読経の文字の沈着冬木立	世良日守	福岡県
がうがうと紅葉にまなこ濯ぎたり	せり坊	埼玉県
黒南風やあばらのごとき門の中	颯萬	愛媛県
千層のみづの幽々たり照葉	染井つぐみ	兵庫県
墓石の真っ直ぐ秋の日の斜め	平良嘉列乙	千葉県
玉砂利の寺や七日の夜勤明け	高橋寅次	東京都
夕紅葉母の後ろは母の母	竹内一二	石川県
龍吐水嫉妬の如く掃く紅葉	橘陽瀬	群馬県
こぼれつぐ遊行の白露たらんとす	ちいこリターンズ	神奈川県
小鳥来る迦陵頻伽のまろき笑み	トウ甘藻	京都府
千年を等しく生きて苔の花	道子	静岡県
暮の秋がさりと掃いて永観堂	遠々 ゆき子	北海道
一山を徹す十念秋気澄む	豊島月舟齋	東京都

見返りて照葉に生まる小さき空	戸田うぐら	兵庫県
臥龍廊を磨く手の瘤深雪晴	とまや	長野県
心まだ老いをこばみて冬紅葉	なし	神奈川県
色葉散る己に憑きし欲の数	野地垂木	北海道
若かへで性善説の人とゐる	はぐれ雲	東京都
ひぐらしや光り失ふ臥龍廊	巴里乃嬢	神奈川県
紅葉や和尚に会うと背が伸びる	万里の森	長野県
青梅の産毛のひかり阿弥陀行	堀 卓	千葉県
ひとごゑに穢れぬやうに白朮の火	山名凌霄	京都府
永観堂影まで拝む秋の夕	山野鳳	大阪府
冬麗や水琴窟は短調か	ルーキー	山梨県
永観の紅葉供えし父母墓前	若狭展望	福井県
紅葉かつ散る結界の奥之院	いとう こういち	静岡県
墨の絵の白衣観音居待月	いとう さやか	京都府
孫に手を引かるる春や永観堂	おだ よしのぶ	兵庫県
小春日や御堂でしばし母のこと	おみ のぶお	滋賀県
秋高し阿弥陀の印のまるきこと	かいせ あきこ	静岡県
蓮開く夜勤の父の帰宅かな	かいだ ひでお	熊本県
待つてをり紅葉の寺の検温所	しのはら しんじ	広島県
蠟涙を太らせてゐる青葉木菟	しま みよこ	徳島県
四代の塗り碗に盛る雑煮かな	しま よしじ	愛知県
三鈷松今年も妻に拾いけり	すずき ゆうじ	宮城県
永観堂虫干し並ぶ衣紋竹	まつもと としひこ	京都府
祈る手で落ち葉集めるこどもたち	むらかわ けいすけ	大阪府
生も死も分からず光る散紅葉	もぎ なおみ	東京都
春暁や永観おそしと弥陀のこゑ	ももだ ときえ	神奈川県
底冷えの堂に澄みゆく読経かな	もりもと とみこ	大阪府
九輪草きりりと咲けり禅林寺	もりやま ひろし	東京都
唐門を潜る蜻蛉の道見えて	わたなべ しゅんいち	埼玉県
控えめないただきますや年の暮	大坪 覚	神奈川県
廻廊の足裏に冴ゆる一人かな	蔵田かをり	東京都
涅槃会に小さき足裏の並びをり	榎の実	兵庫県
たましひの枯れぬ御堂を秋の声	川越羽流	神奈川県
龍の背や紅葉の風に我も乗り	かなたはる	茨城県
古方丈のゆらぎ硝子や春の雪	小川さゆみ	埼玉県
三枚の紅葉包みて母優し	上野原かりん	山梨県
片頬の光る阿弥陀や雪の朝	伊藤京子	愛知県
御佛と共に歩むや夏木立	石塚彩楓	埼玉県
経唱ふ堂の外まで秋気澄む	石垣 葉星	神奈川県
羽たたむ孔雀紅葉の寺へ二里	安楽あすか	神奈川県

チエンバロに遅れぬやうに散る紅葉
逞しきやすらぎ観音養花天
かなかなや母より三鈷の松ふたつ
回廊の床つややかに夕紅葉

あみま 長野県
あまぐり 佐賀県
明惟久里 東京都
秋野茜 東京都